



認知症 三二講座②

中核症状 記憶障害について

認知症の全ての人に共通して表れる中核症状は、脳の細胞が壊れることで起こる症状で、周囲で起こっていることが正しく認識できなくなります。



記憶障害

今回は認知症で最も多い中核症状の「記憶障害」についてお話します。

人は見たことや、体験した出来事を記憶しておけるように、頭の中に引き出しがあるイメージしてください。私たちはその引き出しを何度も開け閉めして記憶を留めています。しかしその機能が低下してくると、起こったことを引き出しにしまえなくなります。たつた今起こったこと、伝えたことを忘れてしまうのがこの症状です。このような状態を、「短期記憶障害」といいます。また、昔の出来事を思い出すことができない。どこを引き出しにしまったか分からない状態を「長期記憶障害」といいます。



数分前に電話があった記憶がすっかりなくなります。

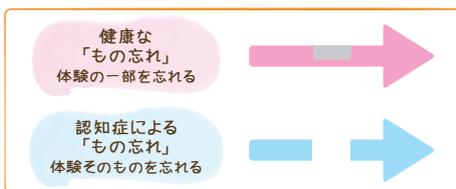
私たちは、誰でも物を忘れることがあります。しかし、思い出せない時には何か物が引つかかったような違和感を持ち、記憶の道をさかのぼり、たどることができます。これは「健忘症(感)」といいますが、認知症の記憶障害の方はこの違和感が全く欠けています。

家族の記憶

私の関わった認知症の利用者さんで、息子さんをいつも心配されている方がいらつしました。しかし、あれだけ待ち望んだ息子さんが面会にいらつしゃると誰だか全く分からず、息子さんも「自分のことが分からなくなつてしまつて...もう何を話してよいかわからない」と言われることがありました。でもそれは息子さんがわからないのではなく「息子」と過ごした一時期の引き出しが開けられず、すっぱりと抜けた状態で混乱していることが大半なのです。そんな時は、家族が「ど

健康な「もの忘れ」との違い

- 健康な「もの忘れ」は体験の一部を忘れることです。
例：朝ごはんを食べたものを忘れてる
- 認知症による「もの忘れ」は体験そのものを忘れる症状です。
例：朝ごはんを食べたことを忘れてる



んな子だつた？」と記憶の引き出しを開けられるような会話を一緒にできるといいですね。また、息子さんを見て自分のご主人と間違われる方もいらつしゃいます。「息子も夫も分からない」ではなく、それは息子さんにご主人の面影が感じられる時によくあることで、「自分もそんな歳になつたんだな」と時の流れを感じてもらえろと関わり方も違つてくると思つていますよ。

坂井きらめき 石川陽子